

中城御殿跡地整備の概要

2023(令和5)年8月 沖縄県 土木建築部 首里城復興課

- p.1…中城御殿跡・松崎馬場の位置及び概要
- p.2…中城御殿跡地の役割等
- p.3…中城御殿跡地のエリア概要と整備イメージ
- p.4…平面プラン

- p.5…立面・断面プラン
- p.6…上之御殿エリアの整備について
- p.7…松崎馬場跡の整備について
- p.8…整備スケジュール

1. 中城御殿跡・松崎馬場跡の位置及び概要



なかぐしくどうんあと
中城御殿跡
(整備予定)

- 琉球王国の世継ぎ（世子中城王子）の屋敷で、当初は首里高校敷地内にあった。当跡地では1874年3月に建物が竣工し、1875年に世子（尚典）が移住した。
- 1879年の琉球処分以降は尚泰王以下尚家一家が移住し、「尚侯爵首里邸」となる。
- 1945年、沖縄戦で多くの宝物とともに消失。



アメリカ軍撮影航空写真(中城御殿部分)
1945年4月撮影/アメリカ国立公文書館所蔵
(沖縄県公文書館複製所蔵)

まつざきばばあと
松崎馬場跡
(整備予定)

- 首里城から本島中北部に延びる街道「西海道」の一部。
- 冊封七宴のひとつ重陽の宴では、爬竜船競争の観覧席を設置したとされる。
- 龍潭及びその周辺は県指定史跡に指定されており、文化財的価値が高いエリア。

2. 中城御殿跡地の役割等

■目指すべき姿

- 首里城や円覚寺跡、松崎馬場などと一体的な整備を行うことで、歴史的風致景観の創出や首里城公園全体の魅力向上を図る。
- 体験学習施設（社会教育施設）を整備することで、首里城及び琉球の歴史・文化に関する展示、体験学習、講座、交流などの教育普及の場としての役割を担う。
- 首里のまちの拠点施設として、首里に関連する歴史・文化を体験紹介する場の創出と、地域における伝統文化の継承促進及び愛着や誇りの醸成、地域への周遊促進などに寄与する。

■中城御殿の役割

首里城公園全体の魅力向上 (歴史的風致景観の創出)

- 城郭内にあった美術工芸品やその他資料の展示・収蔵
- 歴史的風致景観の連続性や公園全体の回遊性の確保
- 公園利用者へのサービス向上と満足度向上
- 首里城への眺望景観の確保

琉球の歴史・文化の体験学習 (展示・体験・講座・交流)

- 王家ゆかりの屋敷である琉球建築・庭園の体験
- 首里城に象徴される琉球の歴史や文化を体感できる物語性のある展示
- 琉球の歴史・文化の発信・体験・学習・継承

首里のまちの拠点施設 (まちの紹介、文化継承・周遊)

- 首里城公園の案内、情報発信(首里城、中城御殿、円覚寺他)
- 地域文化の体験、継承の場
- 地域の人々と来訪者の交流の場、地域への周遊拠点

「琉球文化のルネサンス」に 寄与する歴史公園施設

- 『首里城復興基本計画』の下記施策の実現への寄与
 - 首里城公園のさらなる魅力向上
 - 『新・首里杜構想』による歴史まちづくりの推進
 - 琉球文化のルネサンス

■主な展示予定資料

火災前、首里城城郭内で展示・収蔵していた美術工芸品等



国宝・琉球国王尚家関係資料(那覇市所有)



中城御殿や首里城公園に関連する出土遺物

借用資料

【沖縄県立博物館・美術館】
【沖縄県立芸術大学】など
○琉球王国及び首里城に関連する資料

■周辺施設との連携

首里城公園

歴史公園として施設の鑑賞・見学がメイン。公園全体で琉球の歴史・文化の魅力を一連のストーリーのなかで体感する。また、歴史的風致景観への配慮、地域の交流や次世代を担う子どもたちへの歴史文化に対する意識醸成に寄与する。

首里城(城郭内)

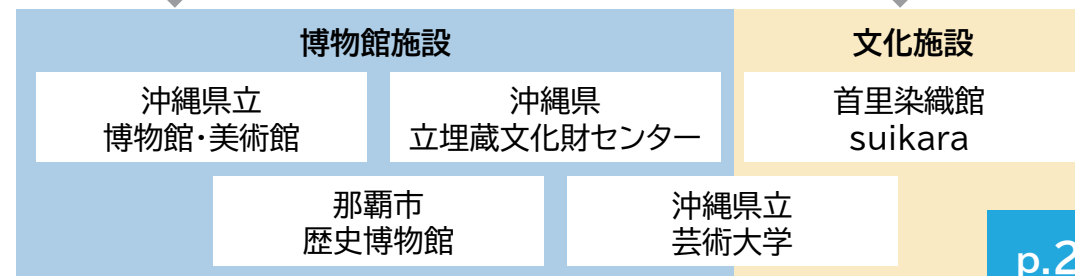
- 首里城の建造物が展示物
- 琉球王朝の歴史・文化に関する展示や行催事
※前回復元テーマ

中城御殿

- 琉球王家の屋敷、生活・文化の展示・体験
- 首里城や王国文化遺産の実物展示
- 首里地域の紹介

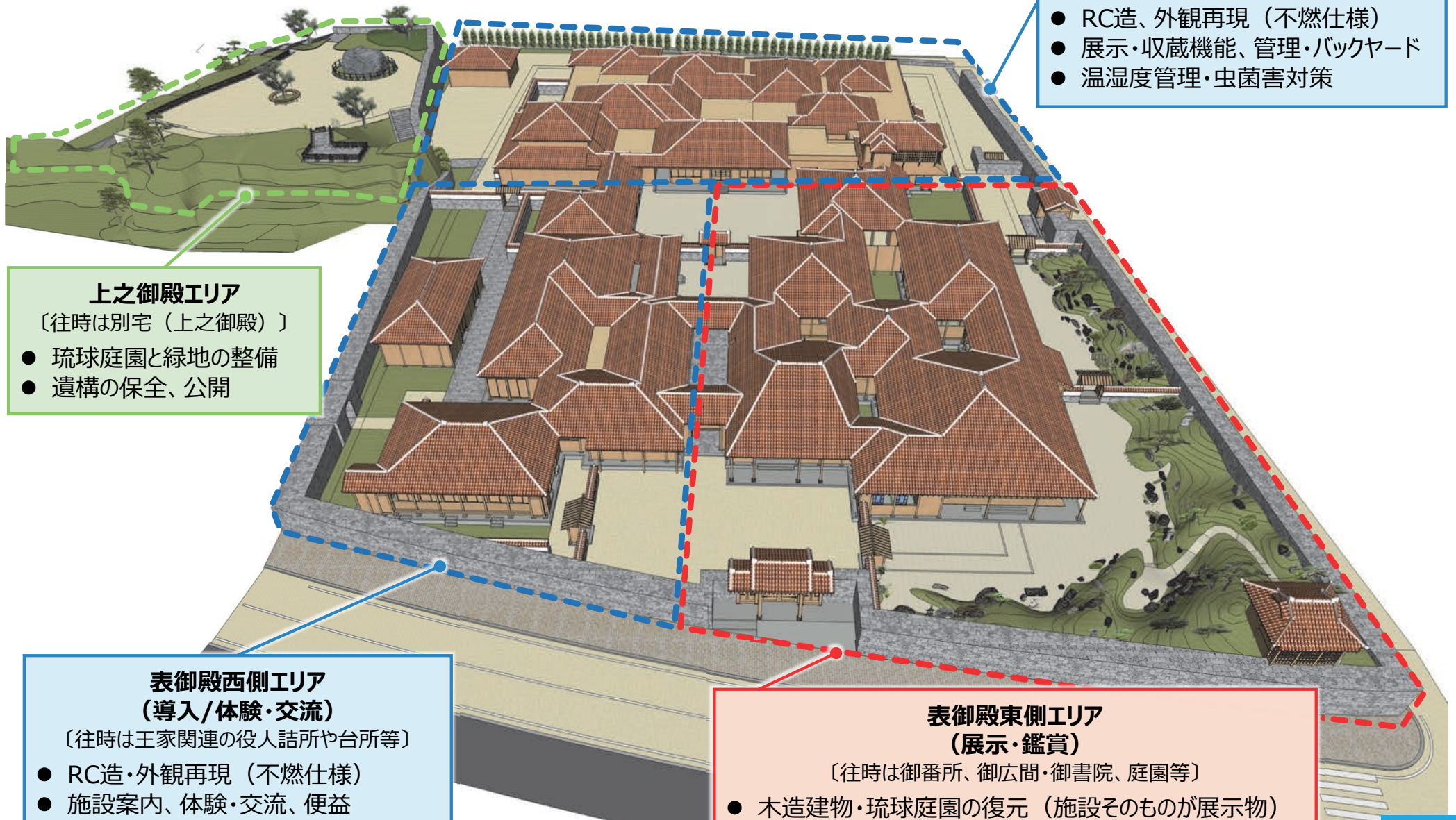
首里杜館

- 琉球文化を包括的に発信
- 王国前史～現代の営みまで発信
- 城郭内復元とあわせた「見せる復興」

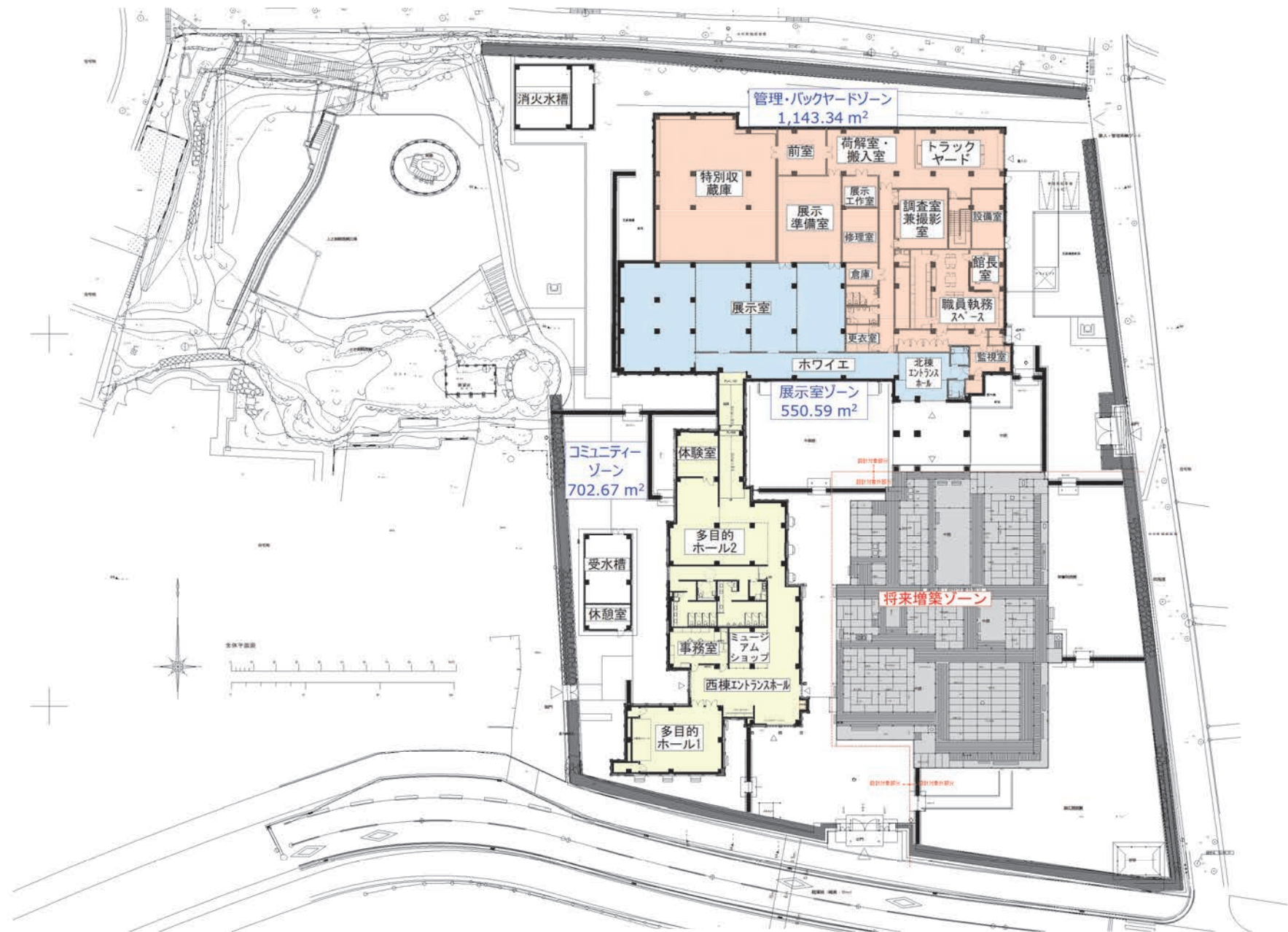


3.中城御殿跡地のエリア概要と整備イメージ

中城御殿整備イメージ 鳥瞰図(正面、龍潭側より)



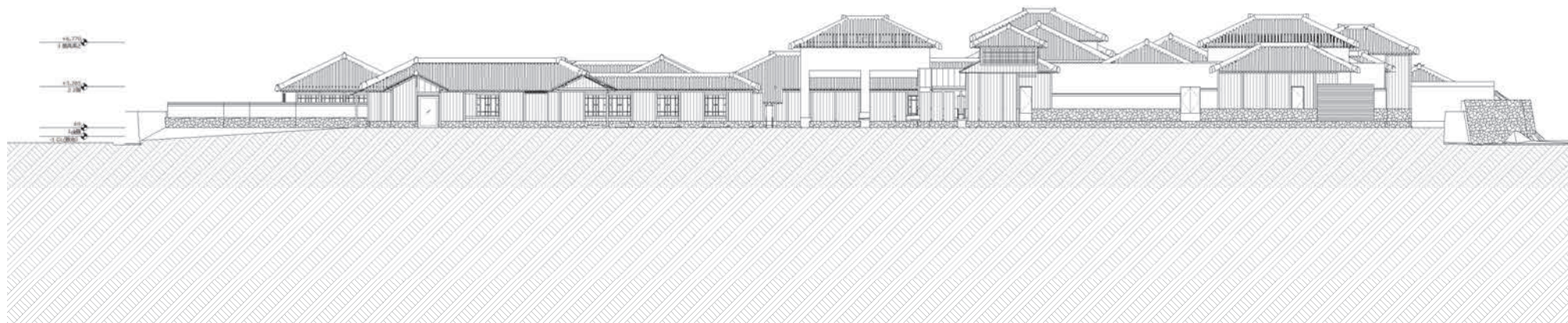
4.平面プラン (2023年8月 基本設計段階)



1階平面図

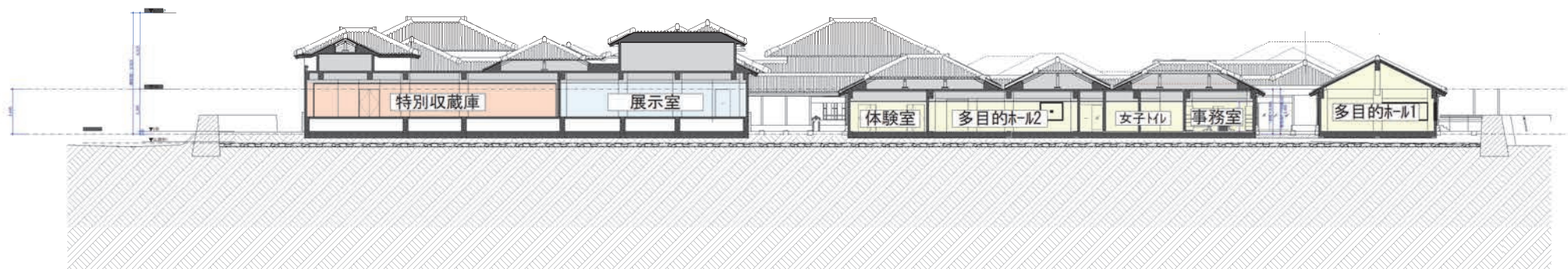
1:800

5. 立面・断面プラン (2023年8月 基本設計段階)



東側立面図

1:500



南北方向断面図

1:500

6.上之御殿エリアの整備について

上之御殿エリアの整備方針

- 上之御殿エリアは、これまでの発掘調査で多くの地下遺構が発見されており、これらの遺構等は、将来の中城御殿全体の文化財指定に向けて、適切に保存・活用する必要がある。
- そのため、今回の整備では遺構の保護を最優先とし、中長期的な文化財整備も見据え、公園事業としての整備は最小限とする。

北側アプローチ

- 上之御殿エリアからの緊急時避難経路として、北側に階段を設ける。
- 階段及び擁壁の外観は、中城御殿の景観に馴染む仕上げを行うものとする。
- 発掘調査にて遺構が検出された場合は、検出遺構を基に計画を見直すものとする。

西側の段差

- エリア西側の石積み遺構等は保全する。
- 段差があった往時の地形（段差）を表現するため、新規石積みを設置する。

園路・植栽

【園路等】

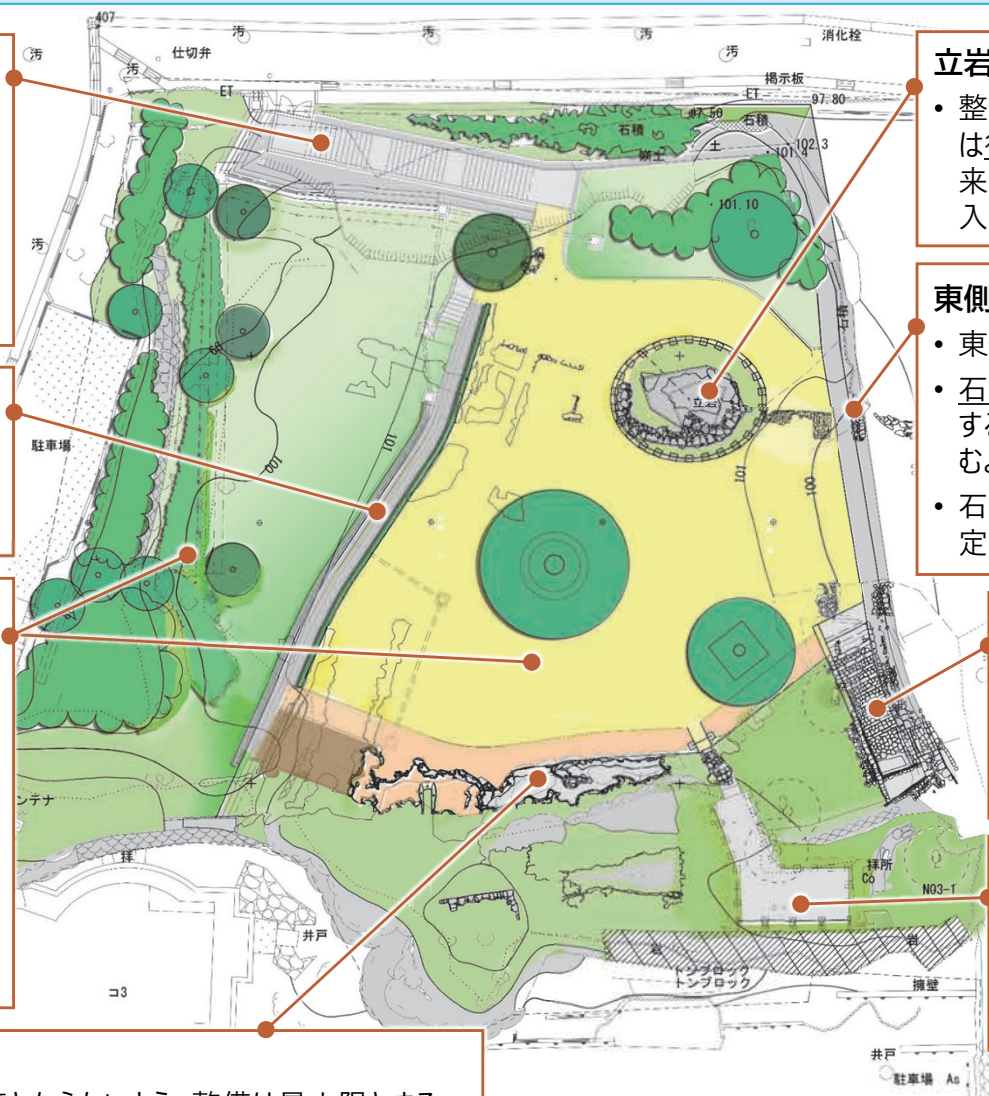
- 来訪者が自由に空間を味わう広場とし、園路は整備しない方針とする。パーゴラ等の構造物は整備せず、高木によって緑陰をつくる。

【植栽】

- 遺構が確認されている旧階段や庭園周辺などのエリア（南側・東側）は抑制的な植栽とし、新たな擁壁や造成を行うエリア（西側・北側）は修景植栽や遮蔽植栽を検討する。

庭園遺構

- 上之御殿庭園は、将来の文化財指定の支障とならないよう、整備は最小限とする。



立岩(ガジュマルの拝所)周辺

- 整備の根拠となる資料が少ないため、今回は復元的整備は行わないものとし、外周に来園者の安全や遺構保護を目的とした進入禁止柵を設置する。

東側の石垣

- 東側の残存石積は、修理し、活用する。
- 石垣がない箇所は新たに石積擁壁を整備する。外観の仕上げについては景観に馴染むよう配慮する。
- 石垣の高さは、古写真の分析等により推定する。

石階段

- 遺構を修理し、活用する。
- 広場の計画高にあわせるため、旧階段と同様な蹴上と踏み幅の階段を新たに2段設置する。

眺望広場

- 首里城や龍潭、中城御殿建物の屋根が一望できる広場と位置づけ、遺構保護及び拝所への立入制限、安全対策として柵を設置する。

7.松崎馬場跡の整備について

松崎馬場跡の整備方針

- 令和8年度までに松崎馬場跡の空間を整備する。
- 宿道上の遺構の活用方針は中長期的な視野で検討するため、遺構の真上を避けた位置に園路を整備する。

園路

- 令和8年度までの供用開始に向け、中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ、来園者や管理車両等の通行機能を有した園路として整備する。
- 園路は、師範学校時代の石垣や芸大石積を迂回したルートとする。
- 園路整備にあたっては、宿道（松崎馬場）の歴史的風致景観や世持橋からの景観に留意する。
- 園路沿いで転落のおそれのある箇所には、安全対策を講ずるものとする。
- 芸大駐車場沿いに築山・植栽帯を設け、芸大側の境界には芸大駐車場からの雨水排水を受ける側溝を設ける。



広場

- 利用者の休憩や、歴史学習への活用を想定して、広場を設ける。
- 広場は、国学・首里聖廟石垣前、松崎（龍潭突出箇所）付近、園路中間付近に配置する。
- 広場の整備にあたっては、周辺施設の景観や遺構に留意するとともに、広場の機能を考慮した整備を行う。

植栽計画

- 古写真などを参考に、リュウキュウマツの植えられた松崎の歴史的風致景観を再現する。
- 園路から龍潭の水面への眺望を確保するため、生育が安定し緑量感のある樹木を存置し、残る樹木は段階的に撤去する。
- リュウキュウマツは成木を段階的に植栽する。また、要所に低木や草本を植栽し、園地景観の向上を図る。
- 植栽したリュウキュウマツの樹姿の見栄えが良かった段階で、存置木を伐採処分する。段階的に撤去を行う際に、存置木の撤去後は緑の量感が減少することから、その都度、リュウキュウマツを補植する。

8.整備スケジュール ※進捗に応じて変更する可能性がある

▽ 令和8年首里城正殿復元工事完成予定

